

新琵琶湖博物館創造

第2期実施設計(案)概要版〈交流空間・交流機能〉



平成29年(2017年)3月

滋賀県

目 次

1	交流空間・交流機能の再構築の基本方針	
(1)	新琵琶湖博物館の役割	1
(2)	交流空間・交流機能の再構築の概要	1
(3)	新しい交流空間の特徴	2
(4)	新しい交流機能の特徴	3
2	交流空間の再構築のねらいと主な内容	
(1)	おとなのディスカバリー	4
(2)	ディスカバリールーム	8
(3)	ミュージアムレストラン	12
(4)	ミュージアムショップ	16
(5)	樹冠トレイル	20
(6)	地域団体と学校向け交流・休憩ゾーン	24
(7)	わくわく体験スペース	28
3	スケジュール、事業規模および来館者数予測	
(1)	全体スケジュール	29
(2)	事業規模および来館者数予測	30
(3)	第2期リニューアルスケジュール	30



1 交流空間・交流機能の再構築の基本方針

(1) 新琵琶湖博物館の役割

◆「湖と人間」のあり方を県民とともに考え、ともに行動する博物館

マザーレイク 21 第 2 期の二つの柱である「琵琶湖流域生態系の保全・再生」、「暮らしと湖の関わり再生」の実現に向けて、琵琶湖の大切さに気づき、主体的に行動を起こす人びとを応援します。

◆次代を担う人が育つ博物館

体験・交流の機会を数多く提供することで、湖と人間が共存する持続可能な社会の実現に向けた次代を担う人が育つ交流の拠点をつくります。

◆地域活性化の核となる博物館

博物館であると同時に研究施設、文化施設、環境学習施設、観光施設という多面性をいかし、琵琶湖・滋賀を県内外に発信し、県のアイデンティティを高めます。

(2) 交流空間・交流機能の再構築の概要

参加と発見、対話と交流を促し、次代を担う人が育つ交流の拠点となります。

◆交流空間の再構築

大人も楽しめるリアルな知的空間「おとなのディスカバリー」、子どもと大人と一緒に楽しめる「ディスカバリールーム」、滋賀県産食材の魅力を発信する「ミュージアムレストラン」、琵琶湖地域に関連した商品を取り揃えた「ミュージアムショップ」、企画展示室内で個人や小グループに体験プログラムを提供できる「わくわく体験スペース」を整備します。

また、屋外に琵琶湖と森を感じる空中遊歩道「樹冠トレイル」を新設するとともに、旧 UNEP 施設を改修して「地域団体と学校向け交流・休憩ゾーン」を整備します。

◆交流機能の再構築

環境学習のプログラムなどを地域の団体とともに作成し、「博物館と地域」「地域と地域」「地域と学校」をつなぐ交流や連携の仕組みづくりを進めます。

(3) 新しい交流空間の特徴

◆見える・伝わる・広がる参加と交流

博物館で活動している人たちの顔が見え、興味を持つ人のだれでもが参加できる交流活動を展開します。

①大人も日常的に楽しめる空間

身近な自然や環境について、わかりやすく新たな発見がある場とします。

②対話と交流がある空間

地域の団体や個人が活動できる空間を整備します。展示室での対話と交流を促し、次世代を担う人が育つ交流の拠点とします。

③だれでもが楽しめる空間

琵琶湖博物館を訪れるだれでもが楽しめ、体感・体験できる空間にします。

④琵琶湖へ誘う屋外交流空間

自然に近づき、琵琶湖を渡る風を感じながら、琵琶湖が一望でき、森を上から観察できる空中遊歩道を整備します。

⑤アミューズメント空間

地域オリジナルな商品等を提供し、レストラン・ショップの魅力を高めます。だれでもが一日楽しめる学びと遊び心がある博物館になります。

⑥学校・団体利用の快適な空間

学校等の大規模団体の利用促進を図るため、開館以来ニーズの高い昼食場所や体験学習ができるスペースを整備します。

⑦多様な人々に対する安心・安全な空間

高齢者や障害者などの団体が利用しやすい休憩所、介護場所やトイレを整備します。

(4) 新しい交流機能の特徴

◆プログラムの企画・開発

だれもが楽しめ、知的好奇心が刺激されるプログラムを作成します。

①繰り返し利用したくなるプログラムの企画・開発

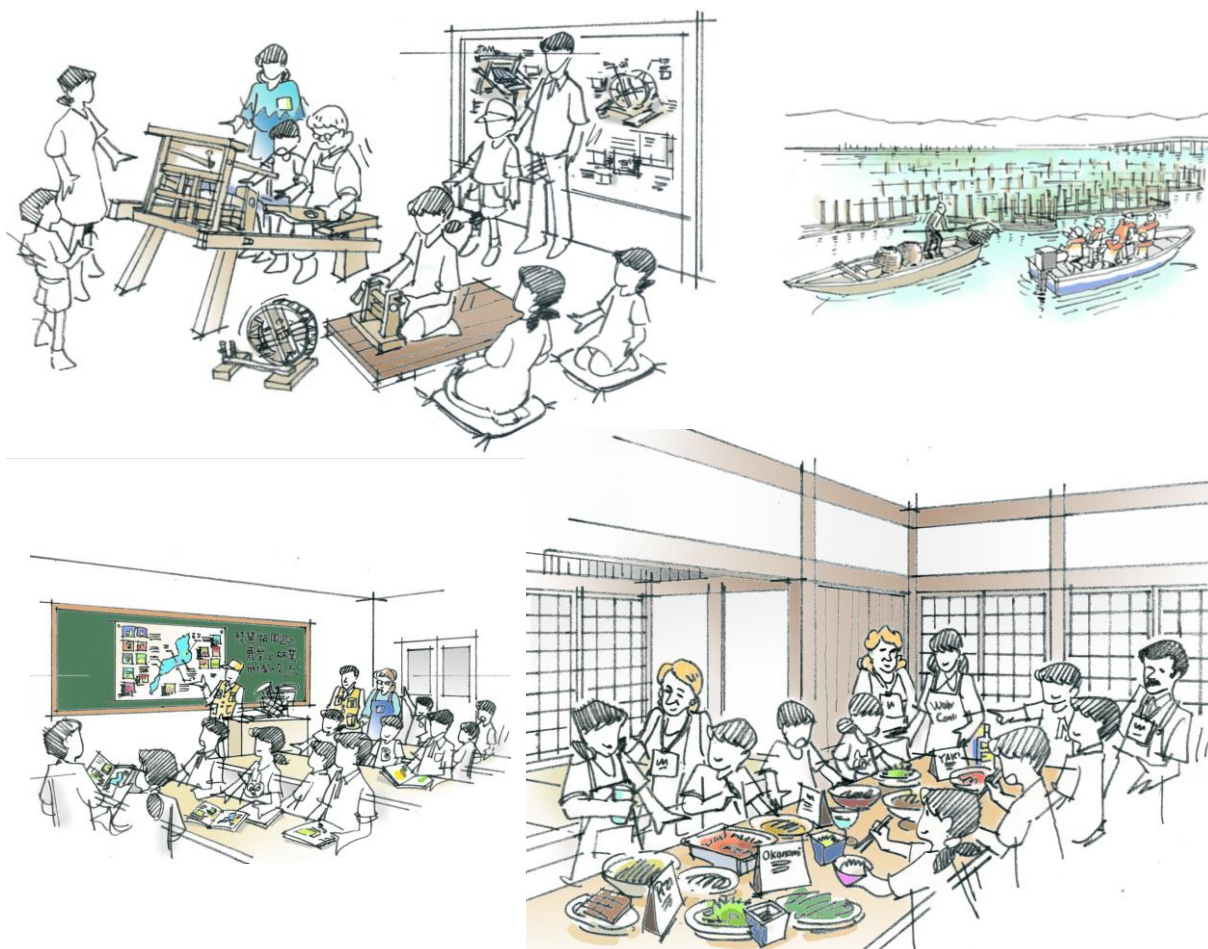
環境学習のプログラムやワークシートを地域の団体とともに作ります。

②地域をつなぐ交流

地域の団体や個人の実践の場を作り、多種多様な人びとの交流の機会を増やします。

③人が育つ環境学習の拠点機能

人と情報が集まり、交流が促進される環境学習の拠点機能としての充実を図ります。



2 交流空間の再構築のねらいと主な内容

(1) おとなのディスカバリー

【テーマ】 大人も楽しめるリアルな知的空間

【ねらい】

大人の探究心に応え、学びと発見の場として繰り返し利用される国内博物館では初めての知的空間となります。標本や剥製などの多様な実物資料を来館者が手に取り、顕微鏡や図鑑などを使い、調べることができます。文字だけでは伝わりづらい研究や学芸員、資料整理員による資料整理、はしかけ※¹、フィールドレポーター※²などの活動を実演形式でわかりやすく来館者に伝えます。展示とフィールド※³をつなぎ琵琶湖や自然への関心を高め、地域や博物館活動への参加を促します。

【リニューアル後の姿】

●しらべる・ゾーン

- ・実物標本と図鑑がセットで配置され、標本を手に取り顕微鏡で観察できます。
- ・野外調査や剥製作りなど展示室では見ることができない活動を映像で見られます。
- ・質問コーナーでは、来館者の質問に学芸員が答えます。資料や顕微鏡を使い、よりわかりやすく伝えます。

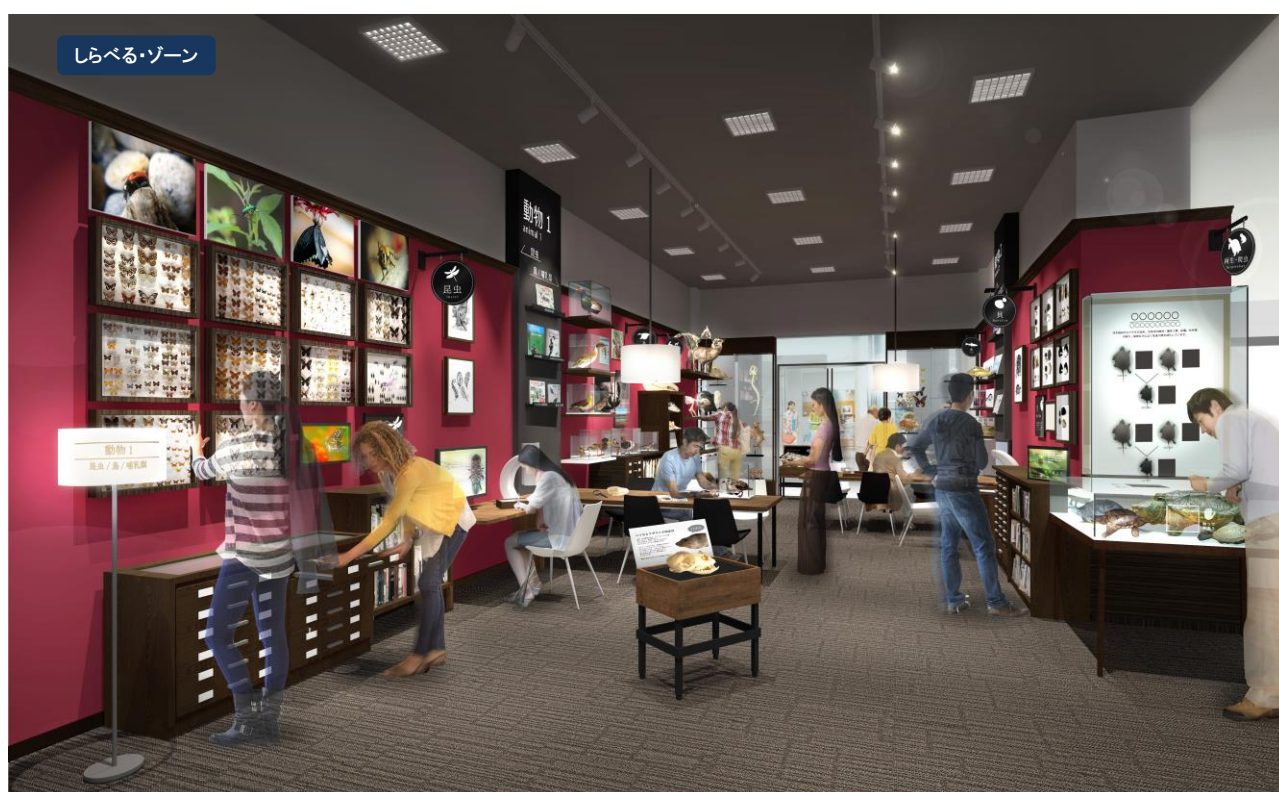
●オープン・ラボ

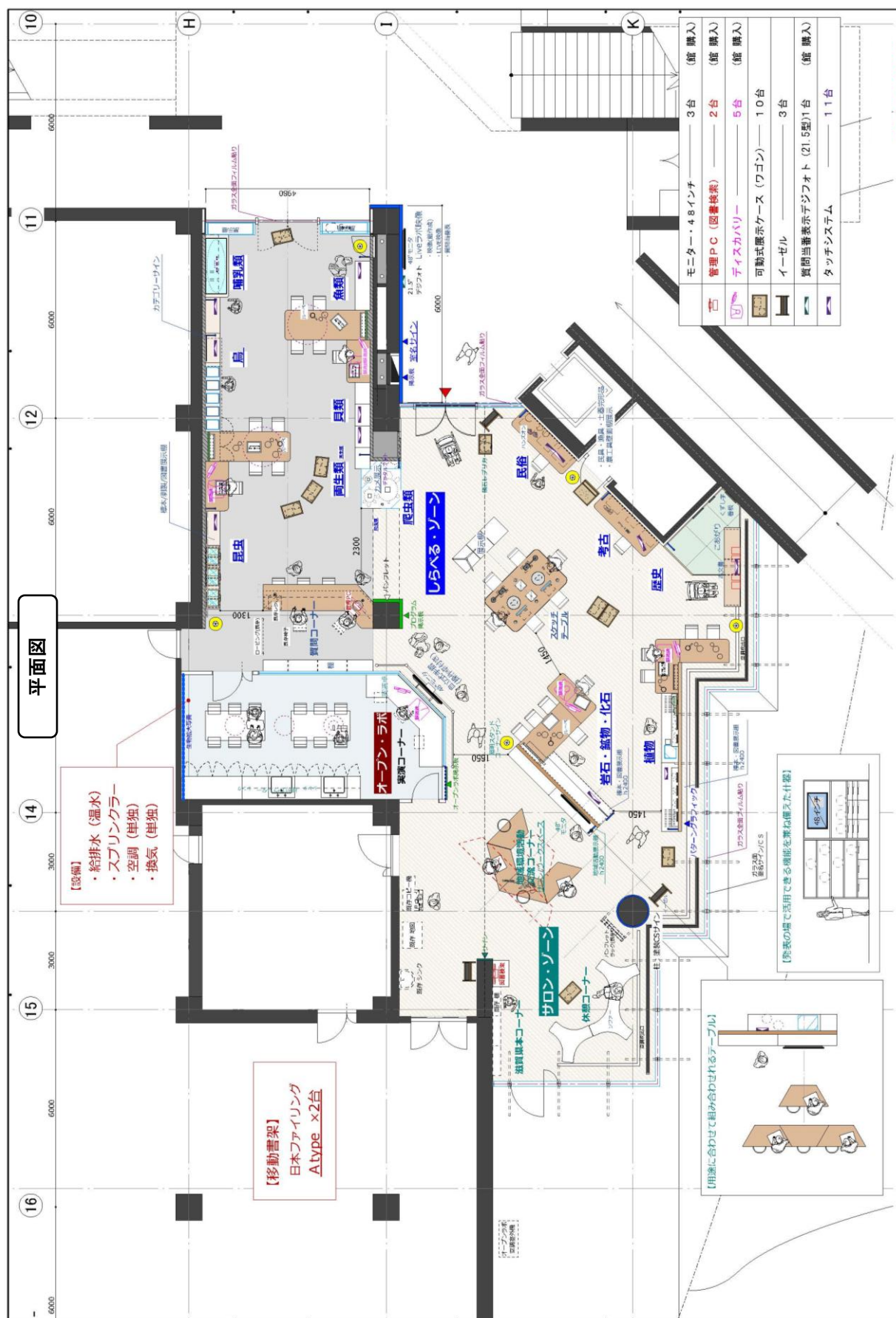
- ・学芸員等による標本作製の様子などを見ることができます。
- ・ワークショップなども開催されます。

●サロン・ゾーン

- ・地域の団体による展示や交流活動ができる棚やスペースがあります。

イメージ図





哺乳類・鳥・昆虫



（２）ディスカバリールーム

【テーマ】子どもと大人が一緒に楽しむ体験と発見

【ねらい】

「琵琶湖博物館の入口」となる空間として、五感を使う体験を通じて学び発見する喜びを知ってもらえる場とします。子どもと大人が一緒に楽しむことができる仕掛けを増やし、楽しい博物館体験を通じて将来の博物館ファンが増えることを目指します。

【リニューアル後の姿】

・本物を体験する

実物標本を取り入れ、未就学児から小学生まで年齢に合わせた観察ツールを使い、本物を観察することの楽しさを伝えます。

・五感を使う

子どもも体感的に楽しめるコーナーを増やします。

（におってみよう、さわってみよう、きいてみよう、さがしてみよう）

・親子で楽しむ

子どもと大人が協力することで楽しめる親子ミッションや、大人自身も発見できる内容を用意し、子どもとの会話がはずむ仕掛けを増やします。

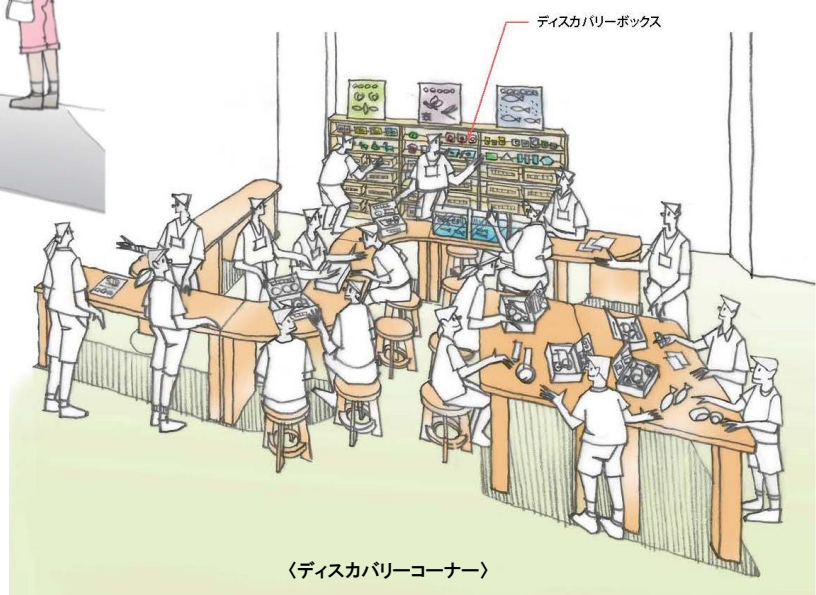
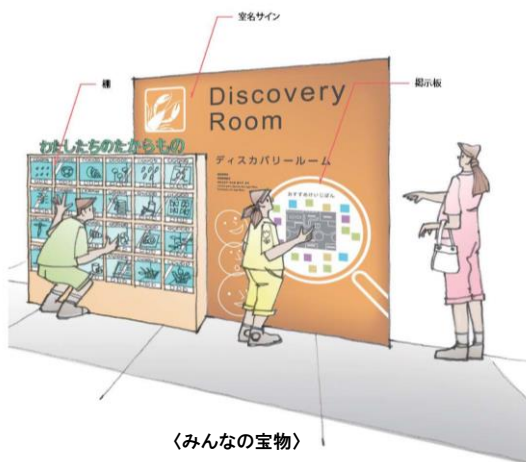
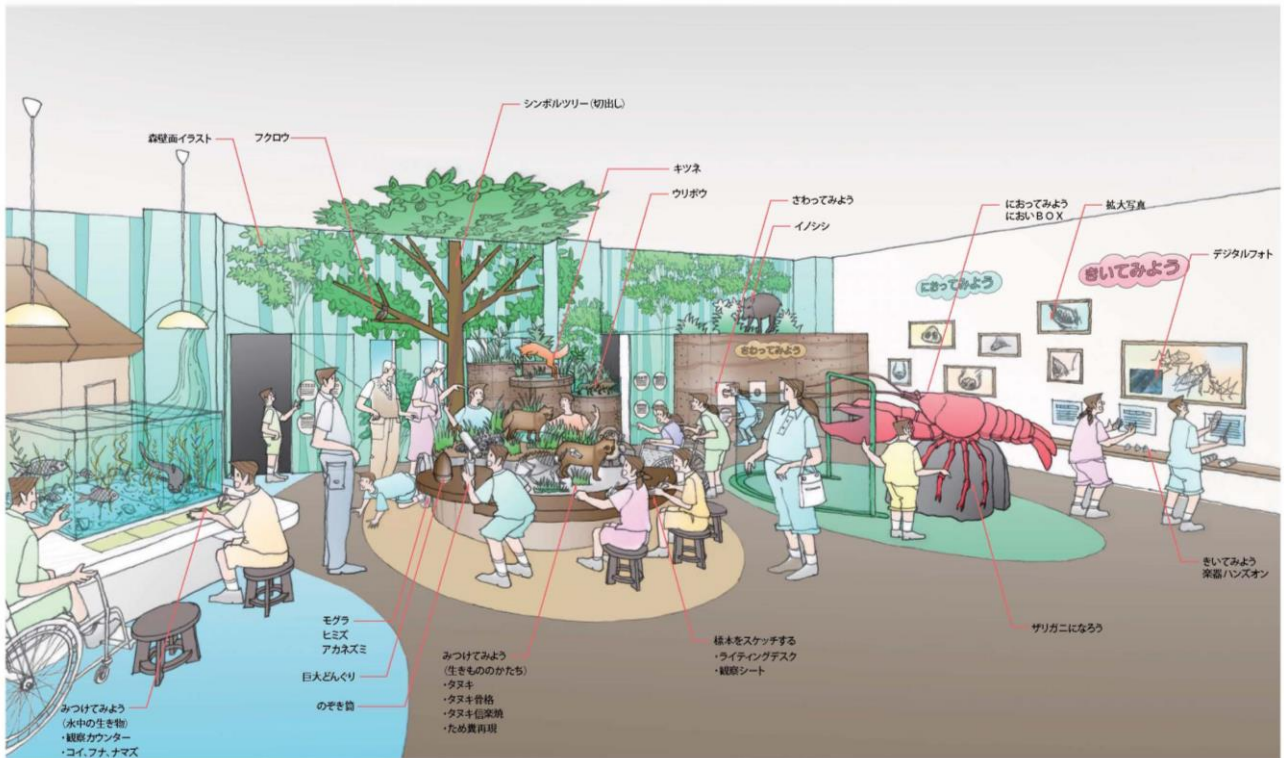
・身近なものをテーマにした更新

地域で来館者が発見したものや、屋外展示の動植物などを季節ごとに入れ替え、何度来ても楽しめ、新たな発見がある空間となります。

・ミュージアムマナー

初めて博物館に来る人が、展示物の扱い方や発見する楽しみ方を学べる場とします。

イメージ図



[illegible]

(3) ミュージアムレストラン

【テーマ】滋賀県産食材の魅力発信

【ねらい】

ふなずしや近江米といった展示と連動した食材や、地元の味を楽しめるレストランとして、琵琶湖地域の魅力を発信します。親子連れや高齢者、障害者など多様な来館者が利用しやすいメニューやサービスを提供します。ドリンクなどのカフェメニューを充実させ、展示観覧の合間の休憩にも利用できる空間とします。

【リニューアル後の姿】

・滋賀県産食材を利用したメニューや食材に関する情報の提供

湖魚や伝統野菜、環境こだわり農産物など、地元の食材を使用したメニューを提供します。食材をディスプレイしたり、漁法や作り方などをメニューブックの中で紹介するなど、料理や食材に関する情報提供を行い、その価値を発信します。

・ユニバーサルデザイン

噛む力の弱い方も食事を楽しんでいただけるよう、刻み食やミキサー食に対応します。テーブルのそばにコンセントを新設し、人工呼吸器を使う方への対応ができるようにします。外国語やアレルギー表記のあるメニューブックを用意します。

・親子で楽しめるメニューと設備

子ども用椅子や子ども用食器を準備するほか、キッズメニューを充実させ、親子が入りやすいレストランとします。食材や料理を介したコミュニケーションから、子どもが滋賀県ならではの食に触れるきっかけとなる場とします。

・一息つける空間に

展示観覧の合間にゆったりと休憩できる場とします。近江茶など、ドリンクやデザートメニューを充実させます。外の風景を眺められるカウンター席やソファ席を設け、くつろげるようにします。

- ・繁忙期における軽食やお弁当の販売

夏休みなどの繁忙期には、軽食やお弁当の販売を行います。手軽なメニューで来館者の選択肢を増やすと共に、レストランの待ち時間を削減します。

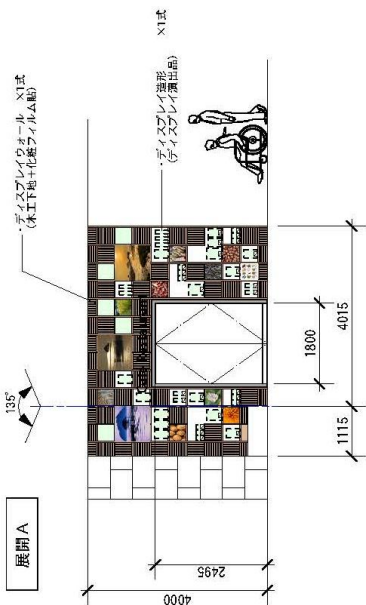
イメージ図

客席面積：165 m²
座席数：80 席

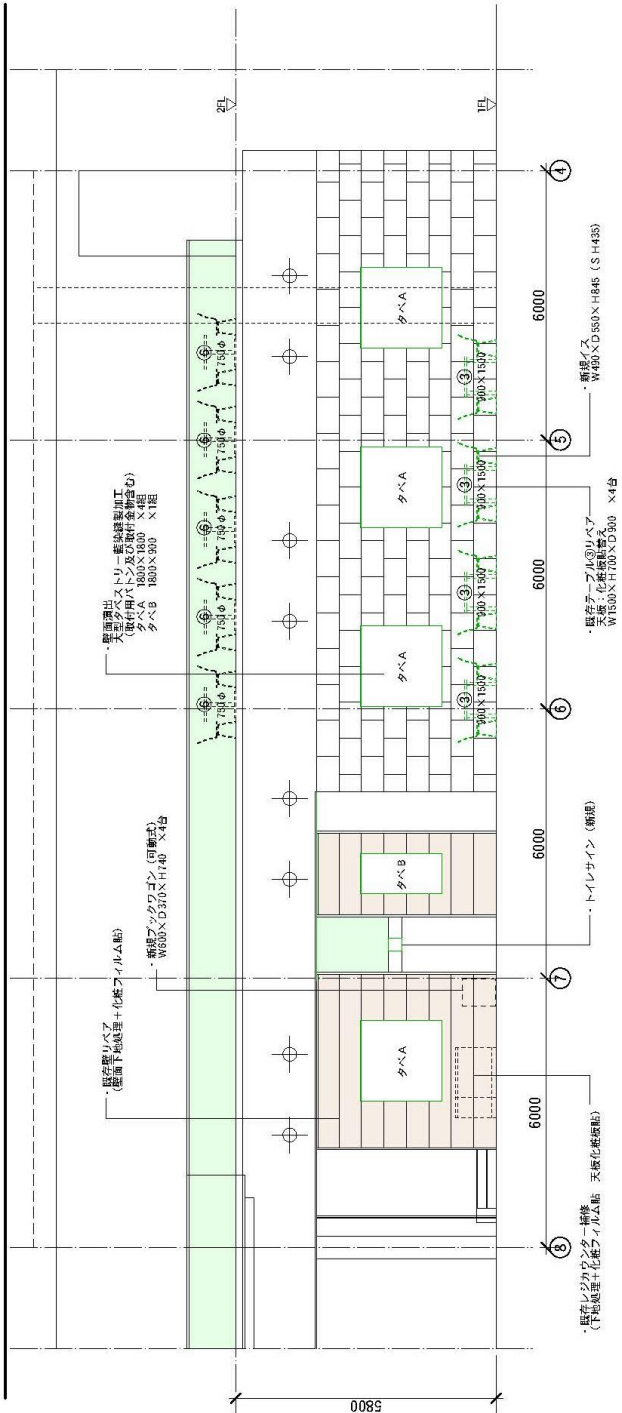


[illegible]

展開図



展開B



（４）ミュージアムショップ

【テーマ】博物館の感動をお持ち帰り

【ねらい】

展示室で扱うものを中心に、琵琶湖地域の様々な事柄に関連した商品を取り揃えたミュージアムショップとします。来館者が展示室で見つけた発見を、商品を通して、家に帰ってからさらに深め、広げていけるよう、そのきっかけとなるショップを目指します。

【リニューアル後の姿】

・琵琶湖博物館ならではのオリジナル商品群の充実

フィールドノートや観察グッズ、図鑑などのフィールドへ誘う商品を豊富に取り揃えます。学芸員との連携により細部までこだわったオリジナル商品を開発、販売します。

・琵琶湖地域に関する書籍の充実

琵琶湖地域に関連する書籍の品揃えを充実させ、本を通じた新たな発見を促します。

・県内を中心とした企業や作家との連携

工芸作家と連携したプラクトンモチーフにしたアクセサリーの製作や、(株)コクヨ工業滋賀との「滋賀のお魚ヨシノート」の共同開発などを行ってきました。県内を中心とした企業や工芸作家などとの連携をさらに強化し、琵琶湖博物館らしい良質な商品を展開します。

・入りやすく・わかりやすい空間に

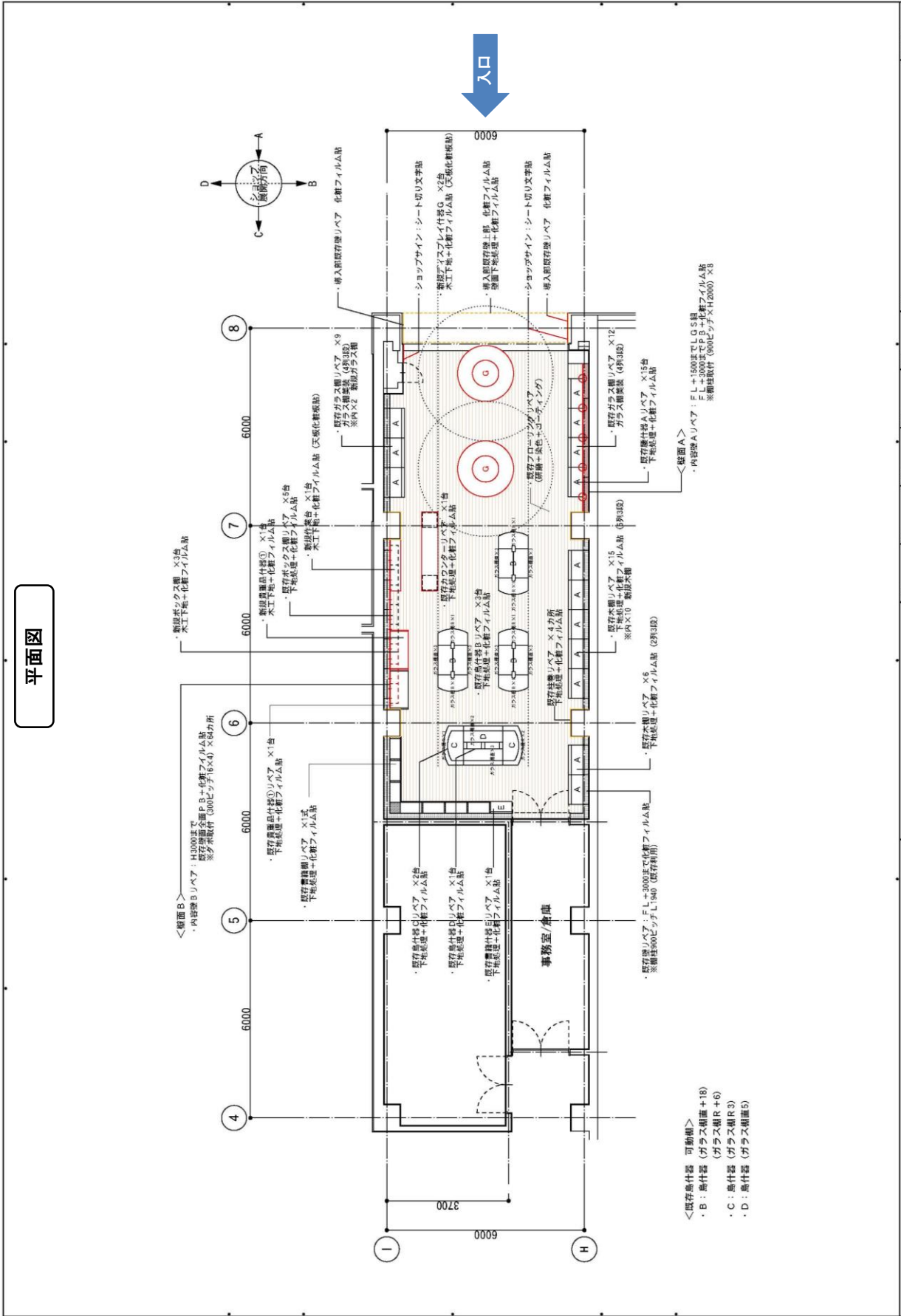
今まで狭かった入り口部分を広くとることで、来店しやすい空間とします。ベビーカーや車いすでも入りやすくなるよう、通路幅を広げます。棚数の増減や什器の移動を可能にすることで、季節ごとに替わる商品をわかりやすく陳列します。

イメージ図



店舗面積：97 m²

平面图



展開図



（５）樹冠トレイル

【テーマ】琵琶湖と森を感じる空中遊歩道

【ねらい】

湖畔にある博物館の立地を最大限に活かして、琵琶湖を渡る風を感じながら屋外展示の森を上から観察できる空中遊歩道を整備します。樹冠トレイルの新設により、新たなシンボルが琵琶湖博物館に加わり、琵琶湖岸屈指の観光スポットとなることを目指します。

【リニューアル後の姿】

・琵琶湖展望スポット

琵琶湖と湖西の山々が目の前に広がる展望スポットを、屋外展示に新設します。展望スポットには、アトリウムの外から琵琶湖にのびる空中遊歩道がつながります。展望スポットと空中遊歩道は、ユニバーサルデザインを考慮し、車椅子でも楽しめるものになります。

・森の空中遊歩道

屋外展示にある森を身近に観察することができるトレイルを、「縄文弥生の森」に設置します。地上からは見ることのできない樹冠の風景を目の前で観察することができます。樹木の葉や花の芽吹きや、樹木に集まる昆虫の姿などを目の前で見るすることができます。

・「はしかけ」解説ボード

樹冠トレイルで観察することのできる、樹木や昆虫の魅力を伝える解説ボードを設置します。植物好きや昆虫好きの「はしかけグループ」と一緒に、親しみやすい解説ボードを作成し、来館者が楽しめるようにします。

・環境学習プログラムの実施

樹冠トレイルを利用して、樹木や昆虫についての学習プログラムを「はしかけグループ」と一緒に開発し、実施していきます。おとなのディスカバリーとも連携して、博物館と屋外展示をつなぐ交流活動も行っていきます。

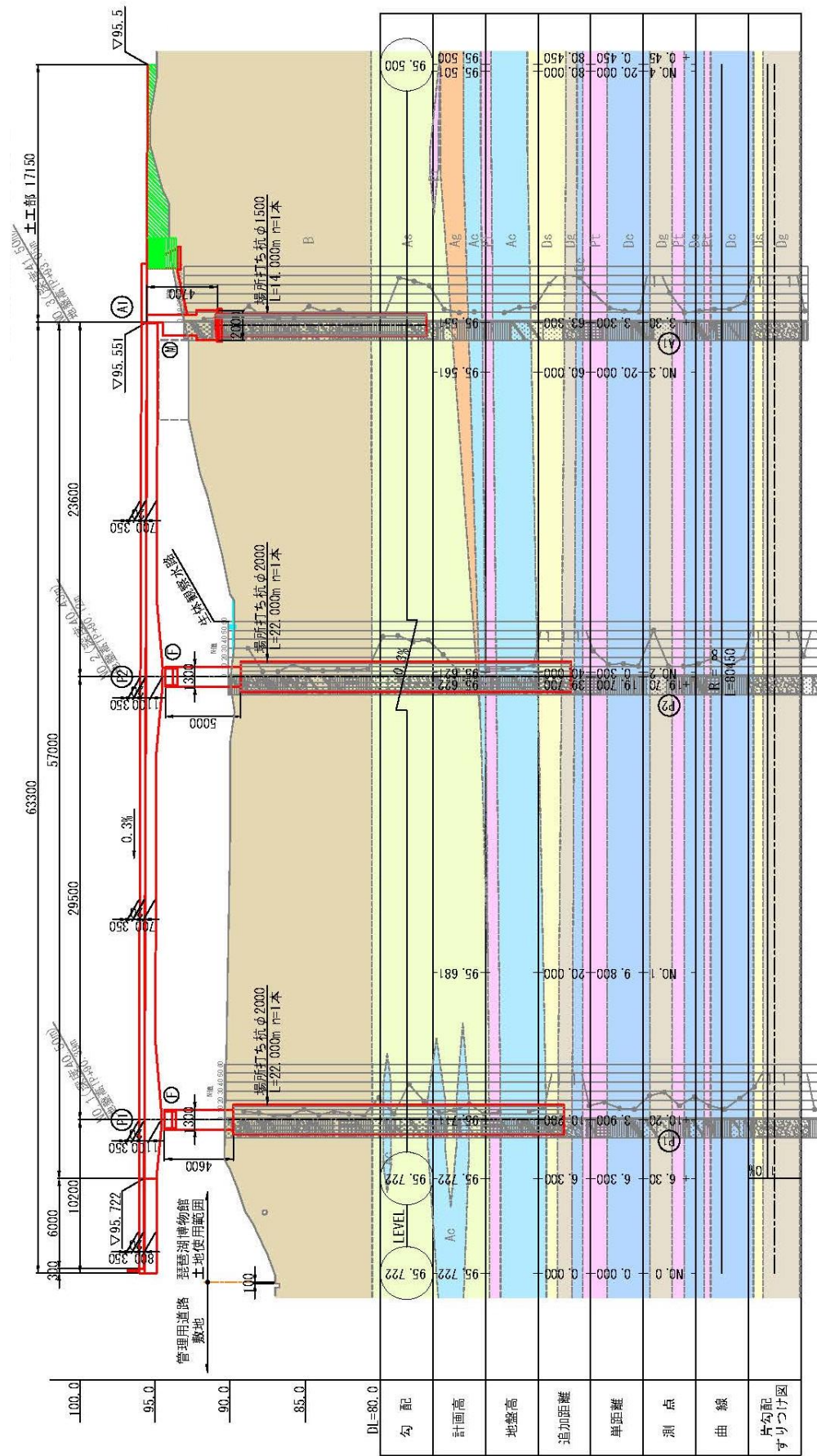
イメージ図



メインルート：約 63m（幅 2m）
展望デッキ：約 6m 四方
サブルート：約 81m（幅 1.5m）
総延長：約 150m
手すり高：約 1.2m



側面図(メインルート)



（６）地域団体と学校向け交流・休憩ゾーン

【テーマ】博物館利用の快適性向上

【ねらい】

既存施設（旧 U N E P 施設の一部）を改修し、多様な主体が活動できる交流空間を整備して活動の輪を広げます。また、団体や学校向けの屋内の昼食・休憩場所を整備することにより、博物館を利用しやすくします。

【リニューアル後の姿】

- ・地域環境活動室の整備

N P O や団体、はしかけ、フィールドレポーター、博物館スタッフ、地域で活動している人たちの活動場所として、地域環境活動室を設けます。

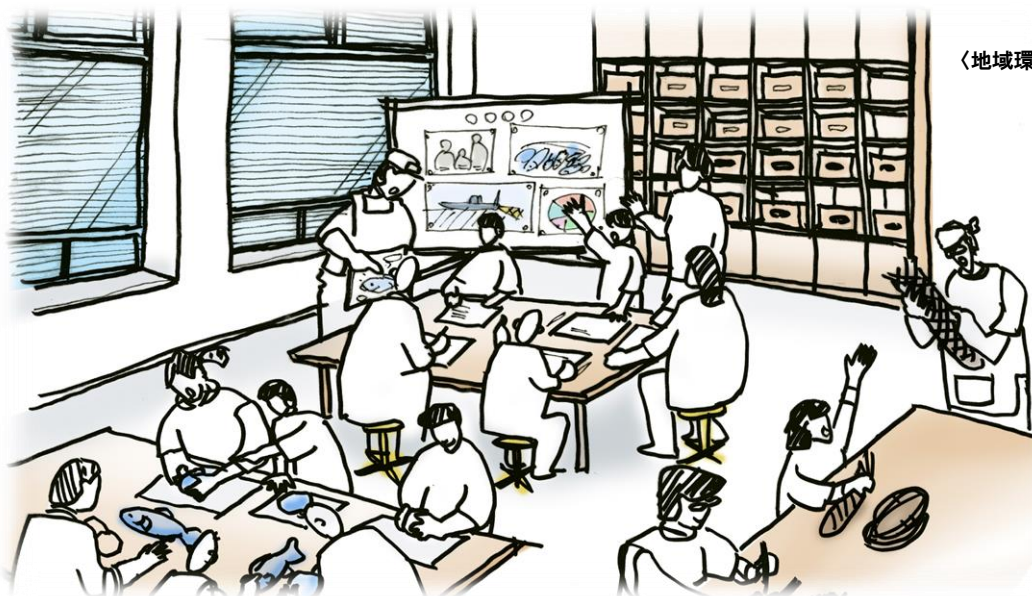
- ・団体、学校向け屋内スペースの整備

団体や学校からのニーズの高い昼食・休憩室、体験学習も行える多目的室を整備します。（利用できる人数：約 2 4 0 人）

- ・身障者用休憩室とトイレの確保

障害のある方や高齢者の方が利用しやすいユニバーサルデザイン対応の休憩室とトイレを整備します。

イメージ図



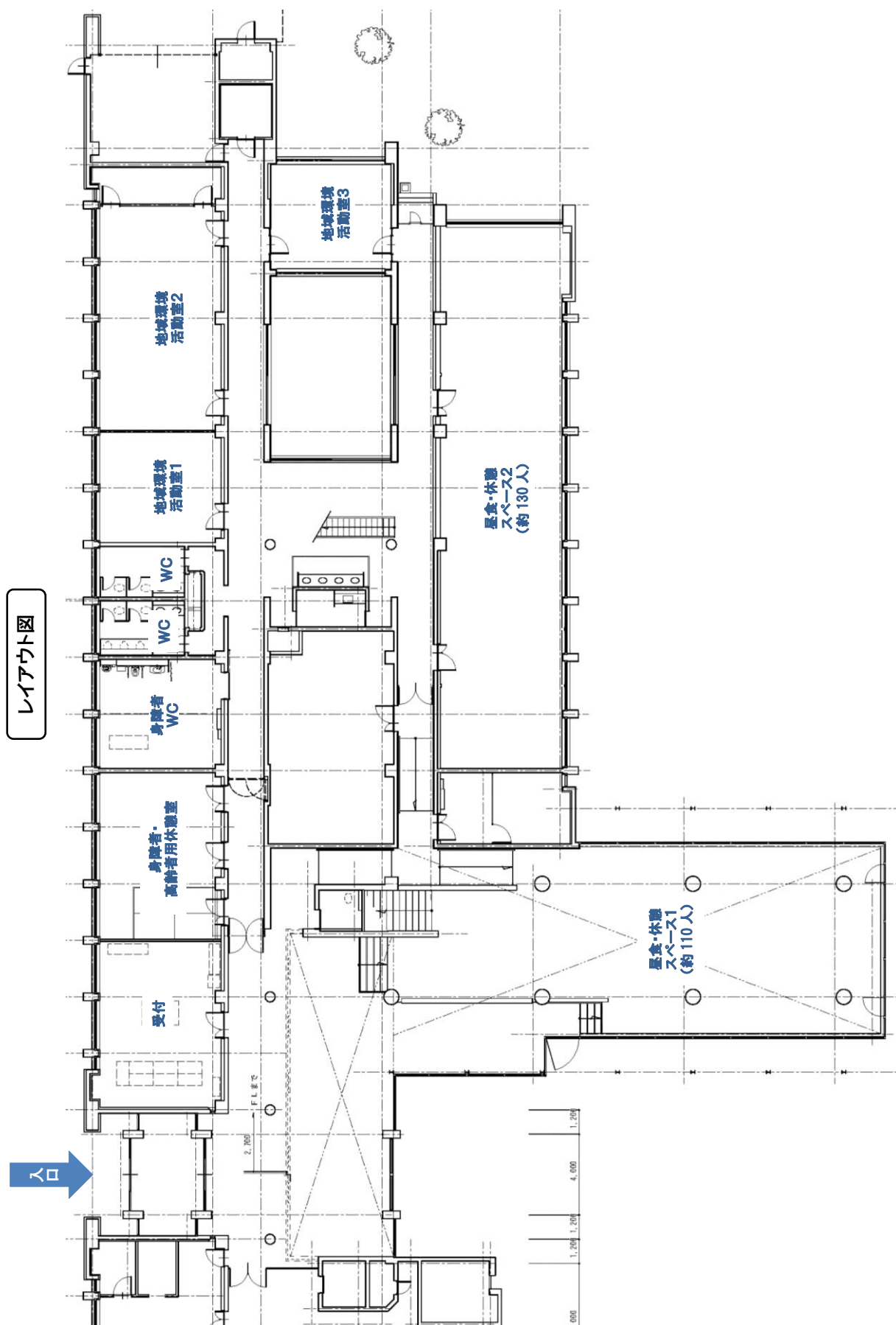
〈地域環境活動室〉



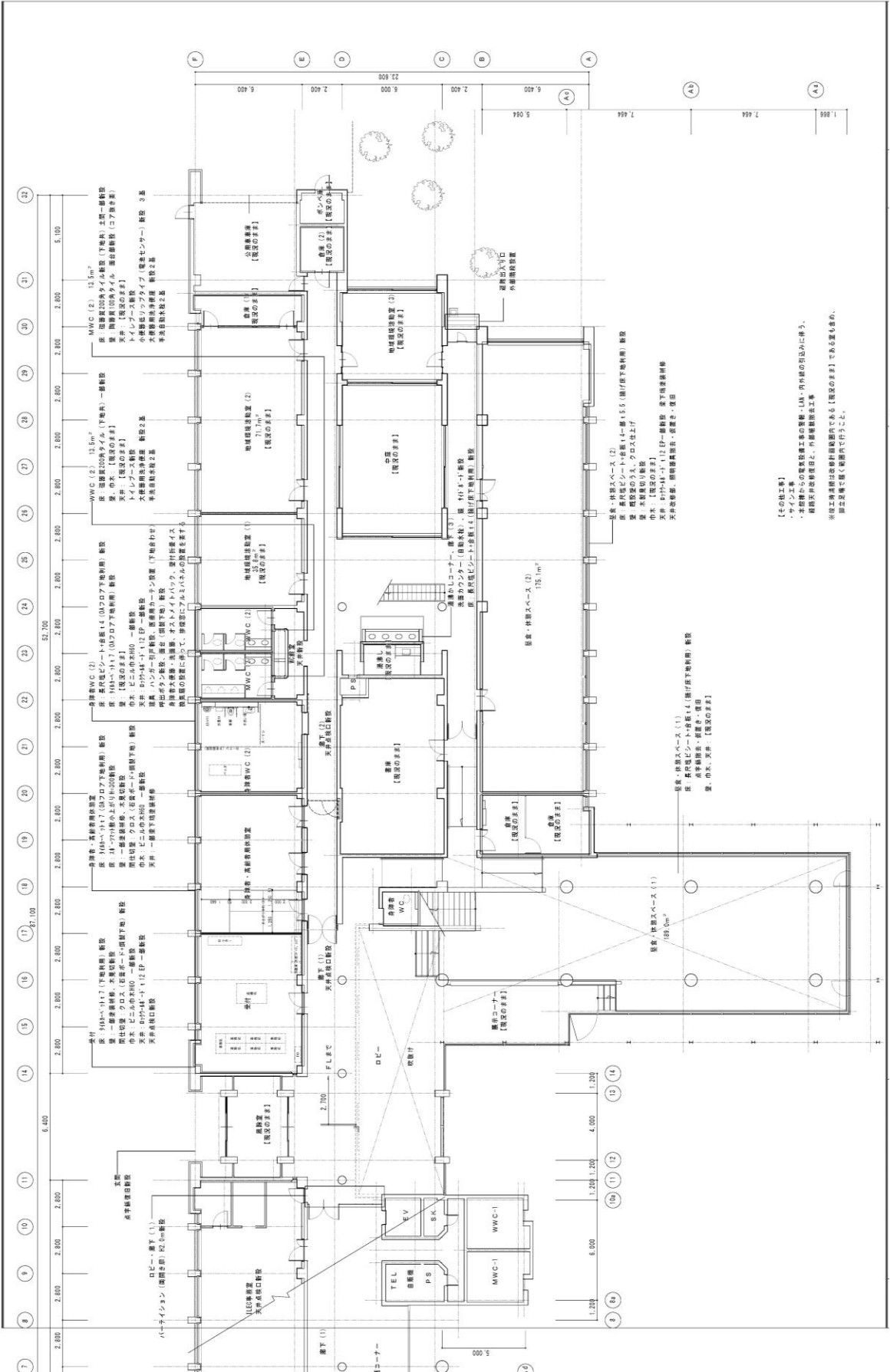
昼食・休憩スペース
利用可能人数：約 240 人



〈昼食・休憩スペース〉



平面图



(7) わくわく体験スペース

【テーマ】だれでも楽しく、わくわく体験

【ねらい】

家族連れやカップル、シニア層などの個人や小グループ向けの体験プログラムを提供します。地域の団体や個人が展示できる空間でもあります。企画展示が開催されていない時期の展示室の稼働率を高めます。

【リニューアル後の姿】

- ・楽しく体験

だれもが楽しく体験できる様々なプログラムを用意します。

- ・市民参加型の展示

地域の人々の環境活動を伝え、その成果の発表や交流の場となります。

- ・明るい展示室

室内の照明をLEDに切り替え、明るく、省エネルギー化もあわせて進めます。



3 スケジュール、事業規模および来館者数予測

(1) 全体スケジュール

平成 24 年度 新琵琶湖博物館創造ビジョン
平成 25 年度 新琵琶湖博物館創造基本計画



第 1 期（C 展示室、水族展示）

平成 26 年度 第 1 期リニューアル実施設計
平成 27 年度 第 1 期リニューアル工事
平成 28 年度 第 1 期リニューアルオープン
(平成 28 年 7 月 14 日)



第 2 期（交流空間）

平成 28 年度 第 2 期リニューアル実施設計、工事
平成 29 年度 第 2 期リニューアル工事
平成 30 年度 第 2 期リニューアル完成



第 3 期（A 展示室、B 展示室）

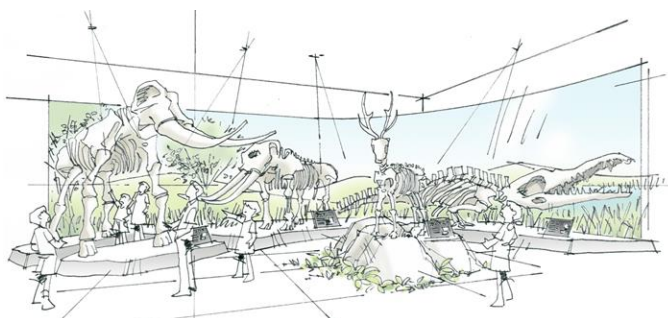
平成 30～32 年度 第 3 期リニューアル



〈C 展示室：生き物コレクション〉



〈水族展示：バイカルアザラン〉



〈A 展示室：変わる生き物〉



〈B 展示室：船とともにある暮らし〉

(2) 事業規模および来館者数予測

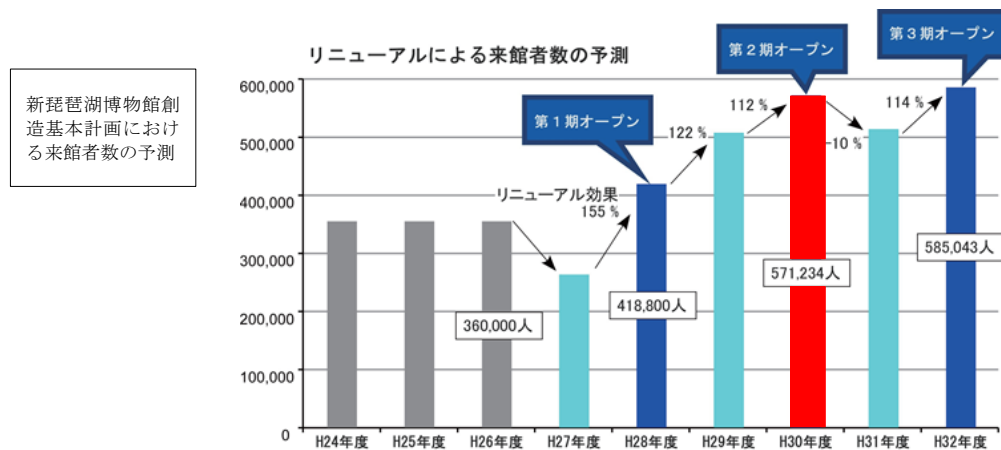
◆事業規模

全体…30 億円規模 第2期…6.3 億円規模

◆来館者数の予測

第2期オープン（平成30年度）…57万人

第3期グランドオープン（平成32年度）…60万人



(3) 第2期リニューアルスケジュール

第2期リニューアルは、平成30年度に段階的にオープンすることとし、「ミュージアムレストラン」「ミュージアムショップ」「わくわく体験スペース」「地域団体と学校向け交流・休憩ゾーン」は平成30年4月頃に、「おとなのディスカバリー」「ディスカバリールーム」は7月頃に、「樹冠トレイル」は11月頃に、それぞれオープンできるように計画を進めます。

項 目	平成28年度				平成29年度				平成30年度		
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
レストラン、ショップ、わくわく体験スペース（展示工事）		実施設計（2016/7～2017/2）			展示契約・工事（2017/3～2018/4）				オープン		
							閉室（2017/12～2018/4）				
地域団体と学校向け交流・休憩ゾーン（建築工事）※旧UNEP施設		実施設計（2016/8～2017/1）			建築契約・工事（2017/2～2018/4）						
おとなのディスカバリー、ディスカバリールーム（展示工事）		実施設計（2016/7～2017/2）			展示契約・工事（2017/3～2018/7）				オープン		
							閉室（2017/12～2018/7）				
樹冠トレイル（土木工事）	予備設計、地質調査（2016/6～2016/10）		詳細設計（2016/11～2017/2）		土木契約・工事（2017/3～2018/11）						オープン

【用語の解説】

※1 はしかけ

地域の人びとが自主的・主体的に博物館活動に参加する制度。参加者自らが活動を企画・運営し、現在、里山体験や田んぼの生き物調査、発掘調査などを行う 20 のグループがあり、329 名（平成 29 年 2 月末現在）が登録している。

※2 フィールドレポーター

琵琶湖博物館開館時から行っている参加型制度の一つで、地域の人びとが県内の自然や暮らしについて、身の回りで調査を行い、その結果を定期的に博物館に報告する、いわば「地域学芸員」のこと。222 名（平成 29 年 2 月末現在）が登録している。

※3 フィールド

ある興味の対象が存在する現場や、その場がある広がりをもった地域を示す言葉。屋外に限らない。